冠雪のない盛夏の富士山

はぐくむ

No.27（平成25年）
社会福祉法人 鶴風会
東京小児療育病院・みどり愛育園
西多摩療育支援センター
後援会

― 連絡先 ―
〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話042-561-2521（代表）
東京小児療育病院
Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は障害児者の生命機能の維持向上と生活援助のため誠実に積極的に取り組み障害児者とその家族を支援します

1頁 副院長就任のご挨拶
2頁 「奇跡の松」その④
3頁 全国肢体不自由児施設施設長・事務長会議に参加して
日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師の認定を受けて
4頁 永年勤続者表彰式
5頁 新規採用職員辞令交付式
6頁 西多摩だより 平成24年度決算報告
7頁 後援会だより 五〇周年記念事業募金趣意書
オルフェの会 バザー案内
8頁 ご寄付者名簿

副院長就任のご挨拶

東京小児療育病院
副院長・看護部長　西藤　武美

四月一日付で副院長職を拝命いたしました。

早いもので、当院に来て二年が過ぎました。着任前は都立府中療育センターに四年間、それ以前は都立病院に勤務し、小児から高齢者まで、救命救急から慢性期まで幅広い看護経験を積みました。

私と障害児者看護のかかわりは、府中療育センター時代に始まります。障害児者看護は看護の原点であることがわかりましたし、利用者の皆さんは「人が生きる」ことの哲学を無言で教えてくれました。それが、この仕事を今後のライフワークとしたきっかけでした。

縁あって当院に勤務させていただくことになりましたが、超重症、準超重症といわれる重い障害をもった方々の受け入れが非常に多いこと、そして何よりも病院全体に活気があるのを見て、その一員となれたことを大変うれしく思いました。その思いは現在も変わっていません。

近年は療育をめぐる環境も変わり、当院も変革の時期を迎えています。平成二十五年四月に施行された障害者総合支援法により、小児の入所は医療型障害児入所施設に、成人後は療養介護となり、制度上は重症心身障害児施設という言葉は消えました。一方、在宅の重症心身障害児者は増え、これからは短期入所や訪問支援、治療入院等の在宅事業を展開することが重症心身障害児施設の中核事業となるでしょう。しかし、新たな制度となっても我々の仕事は変わりません。当院は早くからそれらの事業に取り組んできたからです。むしろ、急速な高齢化の中で、これらの事業をこれまで通り継続させていくことが困難ではないかと感じます。

当院は今年度初めに中長期計画を策定しました。理念の実現のために、それらを計画に終わらせることなく形にし、形になった組織活動を評価、改善していくことがこれからの課題です。

伝統を継承しつつ革新に取り組む組織運営にどう取り組めばいいのか。それにはチーム力が鍵だと思います。職域を越える総合力は単なる足し算以上の力を発揮するからです。だれもがどこかの場面でチームに貢献するリーダーになる。そんなイキイキとした職場づくりが看護職副院長の重要な仕事だと考えています。

悩んだ時は原点に戻る。利用者とそのご家族を支援する使命を果たすために我々が存在していることを忘れず、自分に課せられた仕事を誠実に行っていきたいと思っています。

「奇跡の松」その④

会長　五島　瑳智子

小学生の頃の教科書に「稲むらの火」という文章がありました。三陸沖の津波は貞観時代からの記録があり近くは昭和八年（一九三三年　三月三日、死者三千人）明治二十九年（一八九六年　六月十三日、死者約三万人）に多くの人が亡くなりました。

放送設備も携帯電話もない時代、津波の来襲を知らせるため、高台の稲むらに火をつけ、驚いてかけつけた村人たちの生命が救われたというその文章はいつのまにか教科書から消えました。どんなにひどい災害や戦争があっても、当事者たちがいなくなれば、それがとてつもない大惨事であろうといつのまにか忘れ去られてしまいます。

そして「災害は、忘れた頃にやってくる」の言葉通り八十八年目（二〇一一年三月十一日）に東日本を襲いました。

陸前高田市の七万本の松原も流失し、一本だけ残った松も、二〇一二年に枯死したのですが、多くの方々が奇跡的に残ったこの松を、大惨事の記憶と復興のシンボルとするために原型のままレプリカとして保存することに賛同しました。多額の費用がかかるので陸前高田市は、募金をよびかけました。

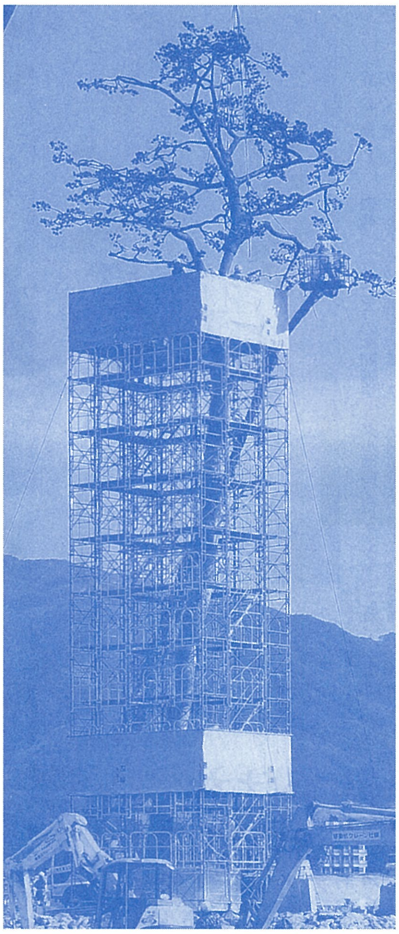
二〇一三年（平成二十五年）三月六日は、復元されたレプリカの松がもとの場所に、もとの姿で設置されました。

よかった！　と安堵すると同時にこの松もやがて劣化し壊れてしまったら災害も忘れられてしまうのではとの不安がかすめました。その頃まで私は、見届けることはできないのでなおのこと心配なのです。

しかし、この松から得た苗木を増やしもとの松原を復元するという遠大な計画もあると聞いて、嬉しくなりました。

七月五日、災害地を見舞われた天皇、皇后様は、陸前高田市を訪れ、奇跡の松のモニュメントを車窓からご覧になりました。

平成二十六年度の高校の教科書の地理、歴史、公民のいずれかの科目に東日本大震災のこと、原子力発電事故のことが、四十八％の割合で掲載されることになったそうです。一〇〇％でないのは不満ですが、大惨事を語り継ぐことの大切さにようやく気付いたことは歓迎です。



復元されたレプリカの松

‡　‡　‡　‡　‡　‡　‡

全国肢体不自由児施設　施設長・事務長会議に参加して

経理課長　乙幡　和明

平成二十五年度全国肢体不自由児施設施設長・事務長会議が平成二十五年六月六日（木）～七日（金）の日程で、和歌山県和歌山市内において全国肢体不自由児施設運営協議会の主催により、社会福祉法人愛徳園愛徳医療福祉センター医療型障害児入所施設愛徳整肢園の担当施設のもと「児童福祉法改正後の肢体不自由児療育」～医療型障害児入所施設の新たな旅立ち～をテーマに活発な議論が行われました。

（1日目）

行政説明

厚生労働省障害保健福祉部障害福祉課
障害児・発達障害者支援室長
地域生活支援推進室長

シンポジスト発言

・「医療型障害児入所施設における諸問題」
東部島根医療福祉センター院長

・「医療型障害児入所施設における整形外科医療・療育について」
愛知県第二青い鳥園長

・「小児（神経）科からみた問題点」
新潟県はまぐみ小児療育センター所長

・「障害児リハビリテーションをめぐって」
大阪発達総合療育センター長

（2日目）

指定発言

・「障害児の歯科医療を巡って」
神奈川歯科大学客員教授

・「障害者政策委員会における障害児についての検討状況」
日本社会事業大学客員教授

・「地域支援の現状と課題」
岐阜県立希望が丘学園事務局長

・「肢体不自由児施設における通園事業の現状と課題」
東京都立東部療育センター事務長

以上のようなスケジュールで行われました。

行政説明では、「障害者などが地域で

普通の生活を営むことを当然とする福祉の基本的な考え」の理念の浸透ということで、これまでの障害福祉施策の歴史についてお話がありました。また、自立と共生を現実障害者が地域で暮らせる社会をめざして自立支援法から障害者総合福祉法へと制度改正のポイントのお話を聞くことができました。

・障害者総合支援法の基本理念

「法に基づく日常生活の支援が共生社会を現実にするため、社会参加の機会の確保及び地域社会における共生、社会的障壁の除去に資するよう、総合的かつ計画的に行われることを法律の基本として新たに掲げる。」

・障害者の範囲

「制度の谷間」を埋めるべく、障害者の範囲に難病を加える。

・障害支援区分の創設

障害者自立支援法での「障害程度区分」について、障害の多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示す「障害支援区分」に改める。

今後の検討として、

①常時介護を要する障害者等に対する支援、障害者等の移動の支援、障害者の就労の支援その他の障害福祉サービスの在り方。

②障害支援区分の認定を含めた支給決定の在り方。

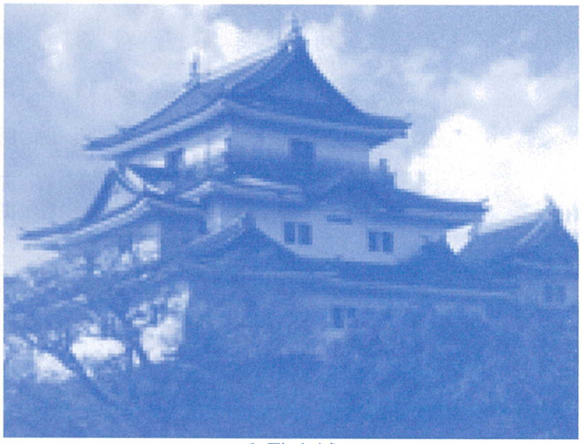
③障害者の意思決定の在り方、障害福祉サービスの利用の観点から成年後見制度の利用の促進の在り方。

④手話通訳等を行う者の派遣その他の聴覚、言語機能、音声機能その他の障害のため意思疎通を図ることに支障がある障害者等に対する支援の在り方。

⑤精神障害者及び高齢の障害者に対する支援の在り方。

この五つの検討に当たっては、障害者やその家族その他の関係者の意見を反映させる措置を講じて、施行後三年を目途として更なる改正が行われるとの事です。

最後に、全国の肢体不自由児施設がこれまで築き上げ続けてきた事業を、引き続き障害児者が望む様々なサービスを提供できる体制を作れるような制度となっていくことを望みます。



和歌山城

日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師の認定を受けて

通園　主任看護師　山村　智子

今回、日本重症心身障害福祉協会による第二回目の重症心身障害看護師認定審査に、東二病棟の清水主任と共に合格することができました。二年間にわたる研修や実習、看護研究、認定審査のための課題提出などを通し、沢山の事を学び、考える事ができました。また、五月八日（水）に京王プラザホテルでの認定証授与式に参加させていただき、東京地区の代表として壇上で認定証を頂きました。認定証を得たことがゴールではなく、この研修での学びや考えた事を実践し、さらなる重症児看護の発展のために自分たちが取り組んでいかなければならないと実感しました。

日本重症心身障害福祉協会認定の重症心身障害看護師とは、次の役割があります。

（一）重症心身障害児者及び家族に対し、熟練した看護技術及び知識を用いて専門性・個別性の高い看護を実践する。

（二）看護実践を通して、看護・療育スタッフに対し教育的支援を行う。

（三）重症心身障害児者を取り巻く今日的課題に積極的に取り組む。

認定審査に受かり、重症心身障害看護師認定証を頂いたからには、日々、自分の役割を認識しながら、重症心身障害看護のエキスパートとして、施設内外での後輩の育成指導の役割を持ち、重い障害をもった方々やそのご家族のために、また、重症児看護の魅力を世に広げていく等の貢献をしていきたいと思います。

最後となりますが、このような重症心身障害看護を総合的専門的に研修する場があり、東京都プロフェッショナルナース育成研修に参加させていただいたことを感謝いたします。研修での学びを現場での日々の看護ケアに還元し、重症心身障害看護師の役割を果たせるよう日々努力していきます。

山村看護師(右)と清水看護師

永年勤続者表彰式

平成二十五年度社会福祉法人鶴風会永年勤続者表彰式が、平成二十五年六月十三日に東京小児療育病院の桑原ホールにおいて執り行われました。中里理事長より表彰状と記念品が、授与されました。

永年勤続者表彰者

勤続三十五年表彰

栄養士　大塚　周二
言語聴覚士　高泉　喜昭
作業療法士　小畑　恵子
ソーシャルワーカー　相馬　潔

勤続三十年表彰

理学療法士　丸森　睦美
理学療法士　大友　則恵
臨床検査技師　田中真由美

勤続二十五年表彰

理学療法士　森　智子
薬剤師　山田　浩子
生活支援員　臼井美千代

勤続二十年表彰

理学療法士　矢野　悦子
看護師　伊藤　みゆき
生活支援員　卯名根口美保子
生活支援員　小山田救人
生活支援員　瀧　広明
調理師　栗澤　康夫

勤続十五年表彰

理学療法士　佐藤麻沙美
理学療法士　川井まさよ
作業療法士　住田多恵子
放射線技師　片口　公
看護師　吉田　武
調理師　高橋　毅

勤続十年表彰

医師　赤星　恵子
医師　鶴岡　広
生活支援員　野島　雅裕
生活支援員　久保秋　聖
生活支援員　村木健太郎
看護師　菊池　紀恵
看護師　森枌　直美
看護師　藤木真由美
看護師　占部　友一
看護師　馬場美那子
薬剤師　吉田　陽子
薬剤師　菊池　綾
書記　石井　昌之
幼稚園教諭　佐々木優子

三十五年の永年勤続表彰を受けて

栄養科長　大塚　周二

私は昭和四十九年の五月に当院に勤務していた調理師さんの紹介で栄養科に入職して三十九年が経過しています。当時の採用面接担当者は庶務課長の大貫さんであり、面接時にこんなエピソードがありました。今までは給食係に配属していた栄養士はすべて女性であり男性を採用するのは初めての試みであることを伝えられました。これは私に対して栄養管理者として期待する声が寄せられていると受け止めました。まだ栄養士になって日が浅く、障がい児（者）の栄養管理に関わることは初めてであり不安が募りました。しかし、生涯この職場で働くならば期待に応えられるように専門職として意識を高めて日々努力をしようと肝に銘じて業務を遂行することにしました。

前任者の管理栄養士により病棟案内で初めて障がい児（者）と接し、摂食嚥下困難者の食事の情景を見学したときにどのように支援をするか戸惑いました。食事をすることは誰しもが楽しみであり、利用者さんが望んでいる食事とは何だろうと自問自答を繰り返していました。健康維持とQOLを高めるのも食事であり、利用者さんが望んでいる食事とは何だろうと自問自答を繰り返していました。

表彰者記念写真

低栄養状態を防止するには食べ物をバランス良く摂取して栄養を補給することであります。摂食嚥下困難者には咀嚼嚥下がしやすい食材を使用した献立で飲み込みやすく、調理された食物を安心・安全に提供することを目標としました。これらを実行するには私だけでなく栄養科職員のチームワークで成し遂げるように支援を行っています。

最後に、定年が近くになりましたが初心を忘れずに全職員のご支援を頂きながら残りの職務を全うして行きたいと思っています。

新規採用職員　辞令交付式

社会福祉法人鶴風会の平成二十五年度新入職員に対する採用辞令交付式が、四月一日に東京小児療育病院の桑原ホールで行われました。

新規採用職員の紹介

東京小児療育病院

診療部　医科診療科　医科診療係
医師　大野由美子
リハ部　理学療法科　理学療法係
理学療法士　安藤　匠
理学療法科　理学療法係
理学療法士　石田　輝也
理学療法科　理学療法係
理学療法士　島袋　悠乃
言語聴覚科　言語聴覚係
言語聴覚士　城戸亜沙美
看護部　看護科　東2病棟係
看護師　栗原　亜季
看護科　東2病棟係
看護師　中村　衣里
看護科　西2病棟係
看護師　江藤　有加
看護科　西2病棟係
看護師　中井　基喜
生活支援部　生活支援科東1病棟係
生活支援員　市川　貴大
生活支援科東1病棟係
生活支援員　石田　梓
生活支援科西1病棟係
生活支援員　長嶺　健也
生活支援科西1病棟係
生活支援員　山谷　美里
生活支援科東2病棟係
生活支援員　川添　彩香
生活支援科西2病棟係
生活支援員　宮木　葉月
生活支援科西2病棟係
生活支援員　松木　景
生活支援科西2病棟係
生活支援員　下津友莉香
地域支援センター　通所科　通所係
生活支援員　青柳　雄大
通所科　通所係
生活支援員　髙橋　勇哉
訪問看護科
訪問看護係　看護師　坂本　芳美

西多摩療育支援センター

事務部　庶務課長　山本　公明
医療支援部　リハ科　言語聴覚係
言語聴覚士　鈴木　飛鳥
リハ科　心理係
心理　工藤三知代
看護科　入所係
看護師　河内　千春
看護科　診療所係
看護師　櫻井めぐみ
地域支援室地域支援係
ソーシャルワーカー　河村亜由美
生活支援科　入所係
生活支援員　葛岡　美鈴
生活支援科　入所係
生活支援員　木下　幸恵
生活支援科　入所係
生活支援員　松田恵美衣
生活支援科　入所係
生活支援員　和田　崇義
生活支援科　通所係
生活支援員　滝田　将平

入職にあたり

医師　大野由美子

平成七年に鳥取大学医学部を卒業し、金沢大学医学部で博士号を取得しました。出身地は鳥取県で、三人の子供の母です。小児科専門医で、鳥取と金沢では主に新生児・一般小児科の診療を行ってきました。そして三年前に医師である主人の転勤に伴い東京に引っ越してきました。東京に来たことをきっかけに学生のころから興味のあった障害児医療を志すこととし、療育病院を探していたところ、ホームページでこの病院を知りました。そして鈴木康之先生始め鳥取大学の諸先生方がご活躍されている病院と知り、また、地域支援も含め障害者のトータルケアを行っている病院ということに魅力を感じ入職を決めた次第です。今まで障害児医療の経験はありませんでしたが、今後は障害児医療をライフワークと考え日々の診療を行っていきたいと思っています。

昨年十二月に非常勤で入職させて頂き、この四月から常勤医となりました。入職してから約半年がたちましたが、リハ部門の研修をさせていただいたり、重心医療・発達障害医療などを基礎から諸先生方にご指導頂き、診療に少しずつ慣れ、またその奥深さを感じている毎日です。

東京小児療育病院は各部門の意識がとても高く、充実したグループ医療ができると感じています。

平成二十五年度新規採用職員と病院幹部職員

西多摩だより
センター祭晴天のもと開催

生活支援科長　清水幸一

平成二十五年六月二日（日）梅雨のシーズンのため、天気が心配されましたが、晴天のもと盛大に第十回センター祭が開催されました。

地域施設六団体の模擬店参加で自主製品や手作りのクッキー、野菜の販売等、来場された参加者が買い求めていました。また、東京小児療育病院の職員を含め多くのボランティアさんによる焼きそば、焼き鳥、チョコバナナ、綿菓子等の販売で会場を盛り上げてくれました。

玄関前では、「楽」「もえぎ」の自主製品も販売され、お客さんがひっきりなしに訪れ交流をしていました。

ホールではイベントが開催され、「つばさ太鼓」「ウクレレ演奏」「一番星コーラス」「あきる野市キララバンド」によるすばらしい演奏が披露され、利用者から楽しかったと笑顔で感想を聞くことができました。

今回も地域からの参加者やボランティアさんの協力があり、交流の場として楽しく過ごせたと実感しています。

平成24年度 社会福祉法人 鶴風会の決算報告

社会福祉法人　鶴風会

【資金収支計算書】　単位：千円

区　分	予算	決算	差異
事業活動収支			
経常活動収入計(1)	4,031,815	4,052,647	△ 20,832
経常活動支出計(2)	3,696,310	3,677,626	18,684
経常活動資金収支差額(3)＝(1)－(2)	335,505	375,021	△ 39,516
施設整備等収支			
施設整備等収入(4)	22,290	21,800	490
施設整備等支出(5)	194,015	187,244	6,771
施設整備等資金収支差額(6)＝(4)－(5)	△ 171,725	△ 165,444	△ 6,281
財務活動収支			
財務活動収入(7)	75,170	75,170	0
財務活動支出(8)	238,950	238,601	349
財務活動資金収支差額(9)＝(7)－(8)	△ 163,780	△ 163,431	△ 349
予備費(10)	0	0	0
当期資金収支差額(11)＝(3)＋(6)＋(9)－(10)	0	46,146	△ 46,146

【事業活動収支計算書】　単位：千円

区　分	本年度決算	前年度決算	増減
事業活動収支			
事業活動収入計(1)	4,642,012	4,710,335	△ 68,323
事業活動支出計(2)	4,446,461	4,481,039	△ 34,578
事業活動収支差額(3)＝(1)－(2)	195,551	229,296	△ 33,745
事業活動外収支			
事業活動外収入計(4)	7,773	9,918	△ 2,145
事業活動外支出計(5)	8,594	10,891	△ 2,297
事業活動外収支差額(6)＝(4)－(5)	△ 821	△ 973	152
特別収支			
特別収入計(7)	21,800	41,157	△ 19,357
特別支出計(8)	27,173	24,660	2,513
特別収支差額(9)＝(7)－(8)	△ 5,373	16,497	△ 21,870
当期活動収支差額(10)＝(3)＋(6)＋(9)	189,357	244,820	△ 55,463

【貸借対照表】　単位：千円

区　分	平成24年度末
資産の部	
流動資産(1)	1,711,842
固定資産(2)＝(3)＋(4)	4,155,279
基本財産(3)	2,741,107
その他の固定資産(4)	1,414,172
資産の部合計(5)＝(1)＋(2)	5,867,121
負債の部	
流動負債(6)	451,183
固定負債(7)	1,409,049
負債の部合計(8)＝(6)＋(7)	1,860,232
純資産の部	
基本金(9)	1,705,794
国庫補助金等特別積立金(10	785,865
その他の積立金(11)	288,779
次期繰越活動収支差額(12)	1,226,451
純資産の部合計 (13)＝(9)＋(10)＋(11)＋(12)	4,006,890
負債及び純資産の部合計 (14)＝(8)＋(13)	5,867,122

単位：千円

脚注：減価償却費の累計額	3,440,016

社会福祉法人鶴風会 後援会だより

アッシジの百千鳥

五十嵐千代子

あれからもう数十年が経ちました。カトリック教会主催の欧州巡礼のたびに参加したときのことです。

訪問地の一つであるイタリア中部の町のアッシジに泊まりました。

翌朝、モーニングコールの前に目が覚めました。夜明けと共に木々の梢から多くの鳥たちが一斉に啼き始めたからです。美しい鳥の啼声で目覚めたのは、私だけではなかったらしく、朝食時、同行の方々の間で鳥のことが話題になりました。メンバーの中、俳人の水嶋夫人が、「あれは何という鳥でしょう」ときかれました。異国で初めて聞く鳥の啼き声から鳥の名を言い当てる者は一人もなく、少時沈黙が流れました。同夫人は「それでは百千鳥とでも申しましょうか」といわれました。さすが俳人でいらっしゃると皆笑顔で頷き合いました。

アッシジの裕福な家庭に生まれたフランチェスコは、かなり自堕落な生活を過ごしていましたが、ある時から愛と清貧の生き方に徹し、人間と自然の共鳴をうたってフランチェスコ修道会を創立した聖人です。アッシジの町にはこの聖堂をを中心として世界中からフランチェスコを慕う人が集まってきます。町全体が、謙遜と服従、貧者、病者への奉仕の精神に支えられ、観光都市でありながらどこか静謐な空気が流れていました。

アッシジの鳥の声に、皆がこれほど心をとらわれたのも昼間、聖堂を見学してジョットやチマブーエの描いた鳥や魚に語りかけるフランチェスコの壁画に接しその生き方に心を打たれ、その地で一夜を過ごした故かも知れません。

帰国して、数十年たってもそのときの情景と水嶋夫人の声が私の記憶の中に鮮明に残っています。

聖フラチェスコ大聖堂

社会福祉法人鶴風会
東京小児療育病院

五〇周年記念事業募金のお願い

1 募金の目的
一、記念式典・祝賀会
二、記念講演
三、記念誌発行
四、その他の記念事業

2 募金の対象者
職員及び当法人の事業活動への賛同者

3 募金の目標額 二千万円

4 募金の金額
一口5千円（できれば二口以上でお願いします。）

5 募金の期間 平成二十四年七月一日〜平成二十六年九月三十日

6 申込方法等
申し込みをなさる方、又募金に関するお問い合わせについては左記にご連絡をお願いいたします。

東京小児療育病院内 社会福祉法人
鶴風会後援会事務局
〒二〇八−〇〇一一
東京都武蔵村山市学園 四−一一−一
電話 〇四二−五六一−二五二一

〔沿革〕
昭和三十七年 社会福祉法人「鶴風会」設立
昭和三十九年 東京小児療育病院（肢体不自由施設）開設
昭和四十五年 重度心身障害児施設（みどり愛育園）開設
昭和六十三年 重症心身障害児（者）通所事業を開設
平成 十六年 西多摩療育支援センター開設

チャリティーコンサート 〜オルフェの会〜

と き 平成25年12月1日（日）
会場 11：30
開宴 12：00
ところ 新高輪プリンスホテル
出 演 ボニージャックス
会 費 25,000円

お問い合せ
総務部 TEL 042−561−2521

チャリティバザーのお知らせ

開催日 平成25年10月20日（日）
11：00〜15：00
会 場 東京小児療育病院院庭

チャリティーバザーでは、10月中旬までご寄贈品を受け付けております。
ご協力お願いいたします。
イベント・作品展・模擬店など企画しております。
皆様のお越しを心よりお待ちしております。

お問い合せ
総務部 TEL 042−561−2521

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名

平成24年12月～平成25年5月
179名（五十音順・敬称略）

青木　悦・青木りう子・朝川　孝幸
浅見　薫子・朝山　浩行・足高　毅
阿部　正和・安部　良治・天沼　満
荒木　保子・石田　哲朗・石橋　幸夫
泉水　昇・伊藤　治男・伊藤　正俊
稲垣　登稔・猪俣賢一郎・入江チヨ子
梅田　寛子・荏原　寿枝・荏原　光夫
桜蔭学園生徒会・太田　宏樹
大高　究・大谷　宏明・大塚　慶子
大塚　博生・小川　昭子・小川　彩子
小川　再治・小川　雄三・奥住　一雄
鹿島田忠史・加藤　光子・加藤　葉子
金森　勝士・金子　晴生・鎌田　昭次
鎌田　直子・勝目　宏・河津　緑
河村　康明・河村　裕子・北原　信三
鬼頭　秀明・木村伊都子・久保さや佳
久保　修一・久保　博・黒木　貴夫
黒瀧　俊彰・小泉　美子・高亀永美子
幸田　文一・越島謙次郎・越島康太郎
越島　園美・越島　知子・小竹原安見
小竹原良雄・小林　一雄・小林登喜子
西條　公勝・斉藤　眞一・坂井　香織
先山　隆司・佐々木徹郎・佐多　由紀
佐藤　中・佐藤　恭子・佐藤　重雄
佐藤　行彦・佐藤　麗子・澤井　寛人
塩野　則次・志鳥眞理子・篠原久美子
柴　忠明・柴　昌徳・嶋田　寛子
島津和貴男・島野　光・清水　友里
獅山富美子・杉　薫・杉本　寛子
鈴木カツ子・鈴木　秀明・炭山　朋子
炭山　嘉伸・千　哲三・高月　誠
高橋　清子・武居　正郎・竹下　寿子
竹下　文雄・竹中希久夫・田中　リナ
谷藤　龍正・田原　久子・田部　秀山
月花　亮・月本　一郎・月本　伸子
辻本公美子・土屋　英子・堤　俊一郎
富山　邦次・長岡　貞雄・長澤　貞継
中谷　尚登・中野　重徳・中村　映子
中村志津子・中村　友美・中村　豊
並木　温・西沢　憲司・西宮　常代
二宮　文乃・野口ケイ子・野沢　和弘
野沢トヨ子・萩原　マチ・橋口　玲子
花岡嘉奈子・花岡　正智・林　京子
林　晴男・早原　千鶴・原田　孝
原田千鶴子・原田裕美子・原山　国秀
樋口志津子・平田　徹・藤井奈保子
藤井奈保子・馬嶋　順子・松岡　玉枝
松原　龍弘・丸山　和子・美島　利通
水野久美子・水野　孝子・水吉　秀男
宮川千鶴子・三宅　三・宮崎　元伸
向山　和代・向山　徳子・村上リョウ
茂手木三男・森　克彦・安士　達夫
矢野　春雄・山川ふみ子・山﨑　公子
山﨑　純一・山田　輝代・山村　憲
山村百合子・山本　温子・吉見　梓
若江恵利子・鷲澤　尚宏・鷲澤　祐子
釜范　登志・吉永　淑子・吉澤　熙
金子稜威雄・高槻　義夫・佐々木郷子
柴　迪子・小原　該一・水野　惇子
盛川　温子・村井　昌允・椛原　宏久

社会福祉法人鶴風会へご寄付者ご芳名（法人・団体・個人）

平成24年12月～平成25年5月
42名（五十音順・敬称略）

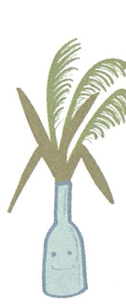
阿部美代子・石田　勇・板垣　祝夫
伊藤九一郎・上野　薫・海老原明次
大谷　友則・大場　幸延・岡松　眞二
上岡　謙夫・上岡　正子・菊地　由美
斉藤　雅彦・佐藤　清子・佐藤　明子
佐久田キク子・清水　宏・白石　祐子
鈴木　康之・清宮　祥子・関根　雅弘
高橋　孝彦・竹中　幸宏・辻　治子
中里　宗樹・舟橋満寿子・眞瀬きよみ
松岡　清子・松尾　賢二・松本　誓子
守田　洋・山谷　敏男・吉川　芳登
吉永　久子・渡邉　高志・高橋　孝彦
野見山捷昭
中藤ボランティア　小川　治代
中藤ボランティア会
㈱エクセルサービス
八王子建物管理㈱・南観光交通㈱

五十周年記念事業募金ご寄付者ご芳名

平成24年12月～平成25年5月
61名（五十音順・敬称略）

赤星　恵子・阿部　京子・天明　佳臣
安藤　明子・飯田美保子・五十嵐廣之
岩本　敦子・榎本　義男・荏原　光夫
大塚　周二・大塚　ミヤ・大友　則恵
㈱ＤＦマネジメント
㈱アイホー多摩営業所・河野　満
斉藤　雅彦・椎木　俊秀・篠　昌治
鈴木　康之・関口　宏・関矢　幸子
泉水　昇・高木　芳夫・竹内　雅人
武田　朋子・竹中　幸宏・田中真由美
田村　貴子・千ヶ崎　孝子
通園みどり保護者会・長岡　常雄
中里恵美子・中里　茂・中里　純子
中村真一郎・萩原ゆかり・長谷川朝彦
林　晴男・原　俊介・原　野多
原　まどか・福永　淳治・藤井奈保子
藤澤たま江・堀内　政彦・堀越　徳浩
本間　義章・松田　光展・三木　延義
水落　笙子・水落　裕・水谷　礼子
柳　恵子・柳瀬　達夫・山崎　佐代
山下　順子・山下　辰男・山田耕一郎
涌井さゆり・和田　恵子・渡辺　裕一

編集後記

巻頭写真にある優美な風貌の富士山が、今年6月に念願の世界文化遺産に登録されました。今年の夏は国内外からも沢山の来訪者が予想されています。施設においては25年以上の永年勤続職員10名の表彰がありました。世界へ富士山の魅力が伝えられるように、先輩達から受け継いだ魅力ある施設にしていきます。

編集委員会